

「Ironman ケアンズ 2013」

2013.6.9 喜田文雄

“グレートバリアリーフ”…。どんなサンゴやろ？ごっついんかいな…？1 回くらいは拝んどきたいな…。トライアスロンもやっているから見に行こうか、と行って来ました。しかし 1 回見たら充分のように思いました。何処も同じですね。人間が行く先では、サンゴもふみくちやになっていました。立ち入り禁止の島はきれいだそうです。沖縄の海で充分かもしれませんね。

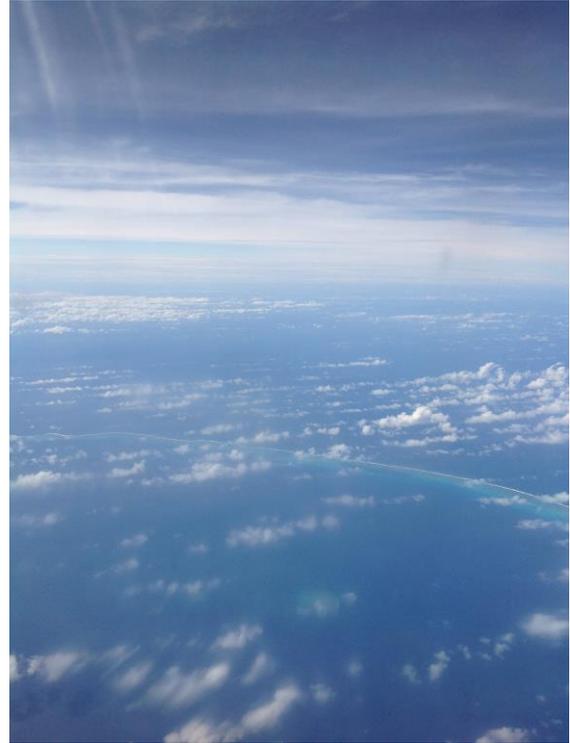
写真は、飛行機から見たグレートバリアリーフの島々です。クルーズ船で行ったサンゴが堆積してできたバラス島は野鳥の楽園でもありました。ランチビュッフェは、船内キッチンでシェフが腕をふるい、あつあつ出来立て料理がとても美味しかったです。

さて、レースですが、スイムコース、スタート、ゴールはホテル街の前の公園です。空港も近くなので、便利さは石垣島トライアスロンに感じが似ていますね。

ケアンズには、日本人が 3000 人近く住んでいるようで、日本食や中華のレストランも多く、レースの日の朝食もおにぎりが調達できました。

エイジのスタートは、ハーフアイアンマンやプロの後なので、7:50 スタートと遅く、ゆっくり寝られ助かりました。スイムコースも目の前やから、ギリギリまで部屋でトイレタイムができました。

スイムは、クルーズ船が停泊する港の海で行われました。毒を持つ魚やら、サメ、ワニに注意してください。何がいるかわからないので、水温 26°C(アイアンマンルールではウエット禁止)にも関わらず、ウエット着用してください、でした。ラッキー♪♪♪しかし、昌子はクラゲパンチをあび、おでこが腫れていました。スタートはフローティングで、プロのあと、一斉スタート。日本のように、バトルもほとんどなく、海の透明度はイマイチですが、湾内で大きな波もなく、泳ぎやすかったです。



バイクコースは、海岸に面した絶景のキャプテンクックハイウェイを全面封鎖して、ハリウッドスターの別荘があるというリゾート地、ポートダグラスを往復するコースです。さとうきび畑の中を駆け抜けるので、宮古島や石垣島を走っているように錯覚するシーンもありました。ジャングルの中に開けた牧場にカンガルーがいました。石垣牛の放牧とオーバーラップします。

宮古島や石垣島トライアスロンのバイクコースと似たようなバイクコースですが、宮古島同様、向かい風には、かなり悩まされ、かなり体力を消耗しました。

途中のエイドは、約 20km ごとと多く、日中、気温が上がって暑くなると、氷の入ったスポーツドリンクを渡してくれたり、とかなりありがたかったです。



ランコースも、のどかなさとうきび畑があると、癒されました。前半の 24km はワンウェイで海岸やら住宅街を通ります。300 坪以上の芝生の張られた広い庭の奥に家があるのですが、敷地が広くて家が小さく見えます。多分、高級住宅街ではなく、ごく一般的な家庭のように感じます。これで一般やったらええなあ〜。しかし芝生の手入れやら大変で練習する時間はなくなりそう…。やっぱり私にはウサギ小屋で充分です。

日曜日やから、休みなんではしょうか？多くの家は、家族で応援しています。目を合わすと、必ず何か言ってきます。オージーは陽気ですね。たまにゼッケンに印刷している“FUMIO”を見て、“フウミーオーサン ガンバッテクダサイ”とか“コンニチワ”、“アリガトウ”などと日本語で呼びかけられたのには驚きました。

この街は日本人も多く働いており、彼らの同僚は、片言の日本語を話すようです。街全体が親日ようで、居心地が良いと感じるのはそのためかもしれませんね。いやいや、こっちこそサンキュー、来年もまた来るかあ〜。

住宅街を過ぎると、空港の刈り込まれた芝生、やし林を眺めながら市街地に向かいます。心配していたエイドステーションも 2km ごとにあり、珠洲のエイドのように豪華です。スイカ、クッキーが美味しく気に入りました。ボランティアの子供たちも多勢で驚きました。楽しんで手伝っているのが伝わってきます。徳之島トライアスロンを思い出しました。

後半の 20km は、公園の遊歩道からエスプラネードというメインストリートを通り、ゴールで折り返す 4km を 2 周半します。ホテル、レストラン、バーのオープンデッキが続くエスプラネードのゴール手前 200m くらいから、両側をフェンスが選手と観客を分離します。しかし、そのフェンスにはびっしりの人ばかりです。ツールドフランスの人垣の中をランする、と想像してください。

ハイタッチの嵐の中を走るのですが、ゴールが近づくにしたがい、オレはまた 42km 走ってないんやけど、このままゴールしたらどうしよう…、と不安になります。

反対側からの選手とすれ違うから大丈夫かな、と不思議な気持ちで進んで行くと、ゴール手前 50m 地点で、Finisher は右、第 1、第 2 ラップは左へ、とあり、その先で折り返し、ホッとしました。

だからツールドフランス状態を 5 回味わえました。

観客も選手が途切れることがないので飽きないのです。よく考えてコース設定してあるなあ…、と肝心しました。突然のスコールにも彼らは動じることなく、選手と一緒にずぶぬれになりながら、はしゃいでいました。肩をたたかれたり、ハイタッチのし過ぎで、肩や手が痛かったですが、随分励まされました。

ケアンズでもドラマが生まれました。出場選手最高齢の 74 歳の日本人選手が完走しました。しかし、制限時間を 30 秒オーバーしてしまい、DNF。横浜鉄人クラブの方で、来年もエントリーしたそうです。



現地で、JTU のメンバーは ATU フィーを \$25 を払わなくていいという情報を小耳にはさみ、帰国後、大会事務局に申し出ると、返金します、という返事がすぐに返ってきました。運営もしっかりしているようです。

最高のロケーション、ホスピタリティー、ショーマンシップ。最高のアイアンマンでした。ケアンズはアイアンマンがよく似合う街でした。

リザルト

文雄: Swim 1:23:52 Bike 6:17:53 Run 5:13:01 Total 13:06:43

昌子: Swim 1:13:45 Bike 6:56:17 Run 4:47:46 Total 13:14:24